

LINEUP

【ダイナミック型イヤホン】  
**SOLIDEGE 01 inner**

¥OPEN(実勢価格¥40,000前後)  
煌びやかな攻めのチューニングを施したフラグシップ。ノズル交換で微細な音の調整も可能。最先端のハイテク系インナーなどに使われている「SMP iFi」を採用した「スパイラルドット+」(プラス)イヤピースも本機だけ。

SPEC ●型式:密閉-ダイナミック型 ●ドライバー口径:11mm ●再生周波数特性:8~52,000Hz ●インピーダンス:16Ω ●ケーブルの長さ:1.2m ●質量:約20g (ケーブル除く) ●付属品:ノズル(チタニウム、プラス、ステンレス)、スパイラルドット+(プラス)イヤピース(S/MS/M/ML/L)、キャリングケース

【ダイナミック型イヤホン】  
**SOLIDEGE 02 inner**

¥OPEN(実勢価格¥28,000前後)  
ドライバーケースをステンレスに変更、ケーブルやイヤチップなどを標準仕様としたスタンダードモデル。シンプルに高音質を体感したいユーザーは、こちらもおすすめ!

SPEC ●型式:密閉-ダイナミック型 ●ドライバー口径:11mm ●再生周波数特性:8~52,000Hz ●インピーダンス:16Ω ●ケーブルの長さ:1.2m ●質量:約20g (ケーブル除く) ●付属品:スパイラルドットイヤピース(S/MS/M/ML/L)、キャリングケース

【K2テクノロジー搭載  
ワイヤレスオーディオレシーバー】  
**SU-ARX01BT**

¥OPEN(実勢価格¥22,000前後)  
MMCXコネクタを搭載しており、SOLIDEGE 01/02 innerとの組み合わせもバッチリのワイヤレスオーディオレシーバー。「K2 TECHNOLOGY」を搭載しており、ワイヤレス接続でもハイレゾ相当の高音質再生ができる

SPEC ●通信方式:Bluetooth Ver.4.2 ●対応コーデック:SBC, AAC, aptX HD ●連続再生時間:約7時間 ●質量:約33g ●付属品:充電用USBケーブル、キャリングポーチ

TECHNOLOGY

所有欲をくすぐる  
フルステンレスボディ

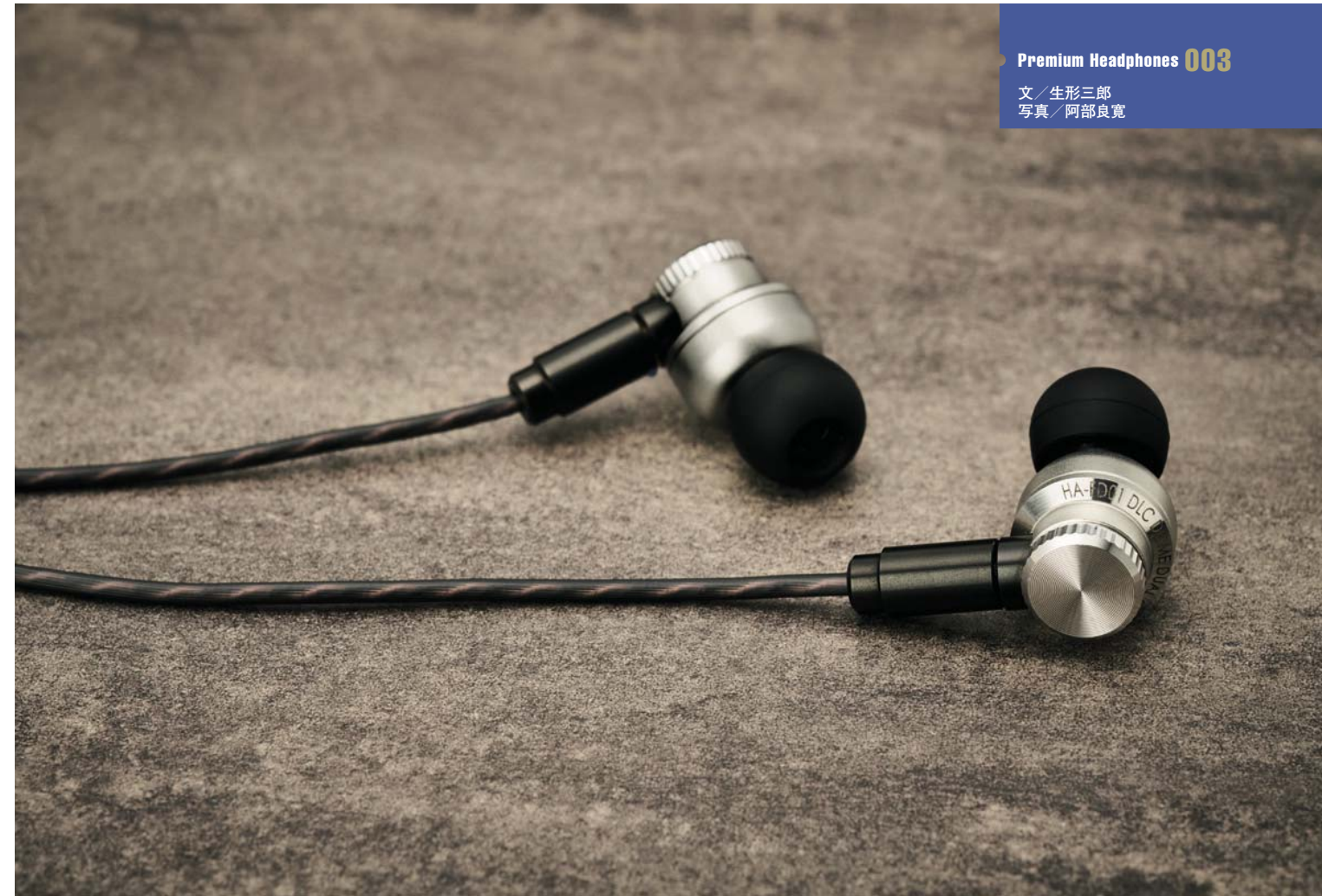
所有欲をくすぐるソリッドなデザイン。高級時計のリュースを思わせる、精巧な金属加工が施されたフルステンレスボディは剛性が極めて高く、音の雑味を徹底的に排除する役割も果たしている。「心地よいナチュラルな響きが出てくる(美和氏)」という。ケーブルは着脱式でMMCXコネクタを採用。ノズル部分は360度回転して角度調整ができる「ファインアジャスト機構」となっており、通常掛けだけでなく耳掛け装着もできるようになっている。



TECHNOLOGY

より高精細なサウンドを生む  
D3ドライバーユニット

細部までクリアなサウンドを実現すべく、新開発された「D3ドライバーユニット」。ダイナミック型の限界を超える「凛とした(Dignified)」、「明快な(Distinct)」、「心地よい(Delightful)」音、という3つの「D」がその名の由来だとか。2種類のアモルフラスカーボンと2種類の高分子ポリマーを組み合わせた「DLCドームデュアルカーボン」振動板(ドーム真ん中の部分を強化している)、「エアダンパー」、チタン製ドライバーケースで構成されている。



都会的なデザイン  
凛とした音色  
際立つ輪郭と伸び

日本が誇る名門「JVC」の最高峰、「CLASS-S(クラスエス)」。クールなデザインと高解像度サウンドを特長とする「SOLIDEGE(ソリデージ)」の魅力に迫る。

【ダイナミック型イヤホン】  
**JVC SOLIDEGE 01 inner**

¥OPEN(実勢価格¥40,000前後)

ダイナミック型の限界突破  
解像感に優れたサウンド

昨年末、日本を代表するブランド「JVC」から、待望のフラグシップイヤホンが登場した。「CLASS-S」シリーズに加わる「SOLIDEGE 01 inner」と「SOLIDEGE 02 inner」の2機種である。どちらも「WOOD」と対をなすシリーズで、そのサウンドは、ダイナミック型とは思えないほどに明晰な描写力を備え、タイトかつ爽快な聴き心地に満ちたものだ。JVCは、如何にしてその驚くべき境地に辿り着いたのか。開発を担当したJVCケンウッドの美和康弘氏の解説を交えつつ秘密に迫っていく。

「優しさや豊かさといった音のイメージで好評頂いたWOODとは対照的な、エッジのあるキリッとした輪郭を感じさせつつも、CLASS-Sにふさわしい上質さも狙っています」と、美和氏。このコンセプトを体現するポイントは、大きく分けて次の2つだ。まずは、新開発「DLCドームデュアルカーボン振動板」だ。2種類の高分子ポリマー素材に、それぞれ異なるコーティングを適用。「中央のドーム部は、DLCコーティングしたPEN素材によって高い強度を持たせ、しっかりとした振動を生み出します。エッジに相当する縁の部分は、カーボンコーティングしたPET素材を用いて、余分な音をダンピングしています」。さらにそ

れらは「アキュレートモーションエンターパー」によって、正確な動きが実現されている。もうひとつは、振動板を収めるドライバーケースや、本体素材への着目だ。「綺麗でナチュラルな響きを得られ、なおかつコスト的にも優れていた」というステンレスボディを採用。これが本機の音質を決定づけている。加えてSOLIDEGE 01 innerでは、スパイラルドット+イヤピースやL/R分離型「ハイグレードグルーヴケーブル」によって、透徹した高音質が追求されている。

**精美的な輪郭で描かれる中高域  
病みつきになるような音**

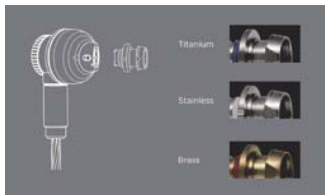
SOLIDEGE 01 inner(ノズルは「ステンレス」を試聴すると、冷涼感溢れる、実に心地よいトーンが耳に響いてきた。歌声のヒタがヒヤリと滑るように耳を撫でていく様が、なんともいぬ快感を呼び起こすのだ。ボーカルやサクセス、そしてギターのリフなど、中高域が精美的な輪郭で描かれ、付帯感のない爽快な音を味わわせる。バスターラムやベースの帯域は適度な量感と弾みを持

ち、音楽のボトムに適切かつ心地よい躍動が溢れる。総じて、ダイナミック型とは思えぬタイトかつ繊細な反応は、病みつきになるほどだ。ファインアジャスト機構の効果も絶大だった。筆者の場合、耳掛けで装着すると、著しく良好なフィット感が得られ、本機の本領が快適に堪能できた。ノズル変更による精妙な音質変化も興味深かった。ステンレスを基準として聴き比べると、チタニウムではよりクールで明瞭感のある音が楽しめる。共に、プラス(真鍮)では一転して柔らかな輪郭表現による聴き心地のよさが印象的だった。

PEOPLE



株式会社JVCケンウッド メディア事業部 技術本部 美和康弘氏。数々のプレミアムヘッドホンを生み出してきた、JVCが誇るキーマンだ。



「カメラのレンズ交換のようなイメージで楽しんでほしい(美和氏)」というノズル交換パーツは、「チタン/ステンレス/真鍮」の3種類。「原音探究」を標榜するJVCらしく、内部の音響フィルターでF特に違いをつけるようなことはせず、あくまで金属素材の違いだけで微細な差を楽しむための設計となっている。